

# 考・努・感

尾張旭市立旭中学校

旭中学校ウェブサイトもご覧ください。

<http://www.owariasahi.jp/asahi-j/>

## 本番当日を迎えるまでの過程

体育の授業では、体育大会に向けた練習がスタートしました。また音楽の授業では、文化発表会『合唱』の練習が始まっています。あなたはどんな気持ちでそれぞれの練習に参加していますか。体育大会は2週間以上先、文化発表会に至っては2か月先のことになります。「まだ先のことだから…」という気持ちでそれぞれの練習に参加していると、あっという間に本番当日を迎えてしまいます。この2つの行事は主にクラスで協力して取り組む行事、クラスメイトと思いを共有する機会になります。自分がクラスの一員としてどんな貢献ができるのか考えながら取り組んでいきましょう。“本番当日を迎えるまでの過程”を大切にしていってください。



### 【☆みんなのキラリ☆】

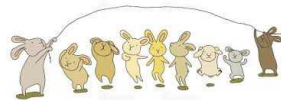
#### ○学習への取り組み

5日(月)に今学期初めての『自学の時間』がありました。学期始めて、しかもとても蒸し暑い日だったので、「しっかりやれるかな?」と心配していました。しかし、みんなの取り組みはその心配を見事に払拭してくれました。課題を忘れた人も、ドリルや教科書などを使用し、1時間集中して取り組むことができました。2学期は大きな行事があったり、部活動でも中心となり、より忙しい日々になるかと思えます。しかし、学校生活の一番の基本は『授業・学習』です。今の気持ちを大切に、みんなで取り組んでいきましょう。

#### ○大縄跳びの練習での風景

「みんな合わせて!」

「さあ、いくよ~!」



大縄跳びの練習をしているときに聞こえてくる声です。正直まだ、全員が同じ方向を向いているクラスはなく、“一つ”になっていません。しかし、各クラスの中に「やろう!」「みんなで頑張ろう!」という思いをもち、行動に移そうとしている人がいることをとてもうれしく思います。そういった人たちが増えていくことを期待しています。

### (来週の予定)

- 13日(火) ~種目練習開始
- 14日(水) 上級学校レポート
- 15日(木) 委員会
- 16日(金) 学年練習予備日



### 【☆キラリ☆を目指し!】

- チャイムが鳴らないと動けない
- ◎チャイムが鳴る前に、時計を見て自分で気づいて動く
- 指示を出されないと動けない
- ◎自分で考え、時と場に応じて自主的に動く

☆今みんなに気づいてほしいことです。

# 努力、努力、努力 つかんだ奇跡の舞台



試合前練習をする  
嘉手納の新垣選手

夢のような時間だった。八回、6連打でチームが反撃。アルプス席からの手拍子が一塁ゴーチの僕の背中に響く。涙があふれた。  
小3で野球を始めたが、一度もレギュラーにならなかった。中学までバットを振っても当たらず、内野の守備ではポロポロとボールをこぼした。  
高校でやめようと思ったこともあった。167センチと体が大きくならず、パワー不足に悩んだ。でも負けず嫌いで、誰よりも練習した。ただ、甲子園はエリートが集まる場所。自分が立つことを想像したことはなかった。だから、い

はま風

あらかきいしゅう  
嘉手納 新垣海舟選手

まこの場にいるのは奇跡のよう。支えてくれたみんなに「ありがとう」を言いたい。  
まずはキャプテンの(大石)哲次。新チームが出来てから「一緒に朝練やろう」と誘ってくれた。僕の背中を押して6時半にグラウンドに行き、2人でトスバッティングとノックを繰り返した。「あいつ成長してます」。僕の努力を監督にアピールもしてくれた。  
そして父と母。メンバー入りできずに落ち込んでいた時に、素振り用のバットを買って応援してくれた。5月末、「夏は入れるみたいだぞ」と哲次が僕と両親にこっそり教えてくれた。71人の部員の中で勝ち取った背番号。みんな僕以上に喜んでくれた。照れくさかったけど、うれしかった。  
大学では人生初のレギュラーを目指す。努力すれば何でも出来る。甲子園がそう教えてくれたから。  
(岩佐友)

この文章を読み、何を感じましたか？なぜ、この文章をみんなに紹介したのか分かりますか？夏以降、部活動では最高学年になりました。みんなはどんな気持ちでこの1か月を過ごしてきましたか？今回紹介したこの2人の高校球児から何かを感じてほしいと思います。部活動を通し培う大切なものに気づいてほしいと思います。部活動を通し様々な経験をする中で、心身共に成長していきましょう。

## はま風 102人が選んだ18人目の宝物



常総 宮本貴徳選手

「甲子園に導かれた男」と仲間と呼ばれる。  
なぜか。公式戦のベンチ入りだが、甲子園でしかないからだ。今春この夏。選抜では代打で二ゴロに終わったが、打席にも立った。  
7月28日朝。グラウンド脇のホワイトボードに甲子園メンバー17人が書き込まれていた。背番号18だけが空白。佐々木監督が言った。「投票で決める」  
最後の1枠はチームに貢献し、最も必要とされる選手を部員が選ぶ。5年前に監督が就任して、導入され

た制度だ。白い紙切れに102人が名前を書き込んだ。  
屋前、監督がマイクで告げた。「選ばれたのは宮本だ。想像していなかった。茨城大会のメンバー4人も漏れていた。自分はそもそもベンチ外。「俺でいいのかな」。記録員の小林に相談すると、「おまえが一番頑張ってるって、みんな知ってるよ」。  
練習の虫だ。冬場は小林を誘い、深夜3時まで室内練習場でバットを振った。1日だけの休みで東京の実家に帰っても、夕方には茨城に戻って練習した。2軍の主将として後輩に気配りもできる。だから、春の選抜でも、投票で選ばれた。  
今度は実力で。その思いで打撃と内野の守備を磨いた。だが茨城大会でも届かず、裏方に回ろうと切り替えた直後だった。  
この夏の4試合は他の部員の方も声を張った。出場機会はなし。それでも「一生忘れない景色だった。みんなながくれた宝物です」。(岩佐友)